

本殿および拝殿

大猷院の本殿は、細やかな彫刻と意匠で覆われ、華麗な装飾が施されています。金箔が大量に使われているため、「金閣殿」とも呼ばれます。家光の霊が祀られているのが、この本殿。この建物は、外部にある拝殿、奥にある本殿、これら拝殿と本殿を繋ぐ通路の三つで構成されています。こうした様式は、「権現造り」と呼ばれるものです。神社や寺は、縁起が良いとされる南に向かって建立されるのが一般的ですが、この大猷院・本殿は北を向いています。家光が祖父・家康への敬意を示すため、家康の遺骨が埋められた東照宮の方角に向けて建立したのです。一方で、大猷院・本殿内に祀られてある本尊は南向きに安置されています。

大猷院・本殿の前には、（日本国内で）力を持った地方大名から寄進された銅製の灯籠が多数安置されています。ただしその内の一対は、当時の韓国の王から贈られた灯籠です。大猷院・本殿に最も近い場所には、一対ずつ徳川御三家によって寄進された、計六基の灯籠が安置されています。